

第4回 さいたま伝統芸能普及 フェスティバル

先人たちが残してくれた「想い」

伝統芸能あるところに昔ながらのコミュニティがあり、先人たちが人と人の「絆」を深めるために伝統芸能は地域を活性化してきました。そんな先人たちの「想い」を見直してみませんか。伝統芸能に親しむ秋をどうぞお楽しみください。



さいたま市に伝わる伝統芸能の紹介・実演

【出演予定】

浦和木遣保存会（木遣・市指定無形文化財）

木崎囃子会（お囃子）

駒形囃子保存会（お囃子・市指定無形民俗文化財）

神田囃子連（お囃子・市指定無形民俗文化財）

原山おはやし会（お囃子）

本太お囃子連（お囃子）

※50音順

2016年11月27日（日）開場 12時30分 開演 13時（予定）

さいたま市地域中核施設プラザイースト ホール 入場無料・自由

主催：さいたま伝統芸能普及フェスティバル実行委員会・（公財）さいたま市文化振興事業団

共催：さいたま市／後援：さいたま市教育委員会

お問い合わせ：プラザイースト 048-875-9933

参加団体プロフィール

浦和木遣保存会

木遣は、木材や石材を大勢で運搬、移動させるとき等に使用された「労働歌」の一種で、江戸時代に町火消しが組織されてから江戸の鳶職によって発展し、昭和30年代までは、木遣地形（木遣に合わせて、蛸と呼ばれる木製の巨大な地突き棒によって、地面を締め固めた）にたびたび使われていました。歴史的には労働の際に使われなくなってきた木遣を残そうと、「木遣構」、「浦和鳶組合木遣保存会」を経て、昭和41年に初代会長内田善造氏を中心とした浦和市内の鳶職によって「浦和木遣保存会」が結成され、昭和49年4月には浦和市（現さいたま市）無形文化財の指定を受けました。

木崎囃子会

木崎にはもともと地域のお祭りが無く、住宅地となった木崎には子供が増え、その子供達に祭りの楽しさを味わって欲しくて、昭和61年、現会長を含めた10名が発起人となり『木崎囃子会』を発足しました。発足当時、岩槻にあった「民族文化センター」にて講習を受け、その後、本太四丁目囃子会の杉山氏に太鼓を、新井氏に笛を師事し、お囃子を習得しました。その後後継者育成のため、平成元年には『木崎子供囃子会』を、平成10年には創作太鼓を演奏する『三崎太鼓』を発足しました。発足当初、太鼓を初めとする用具は、すべて地元木崎の皆様へ寄付をいただいて揃えることが出来、四半世紀をかけて、人や太鼓・衣装や山車・演奏や舞の技を集い、現在に至ります。

本太お囃子連

浦和本太地区では古くは江戸時代後期の嘉永3年頃（1851年頃）にお囃子会が発足したそうですが昭和30年頃に一旦途絶えてしまい、また昭和47年に神輿の復活と共にお囃子を再興し、以降約43年にわたり伝統のお囃子を継承している本太お囃子会と本太四丁目お囃子会です。普段は連合として活動しております。最盛期には浦和八町のお囃子会が浦和独自のお囃子を作り、周囲のお囃子会に指導しながら広めて行っていたそうです。練習は、浦和八町睦のお囃子を基本に江戸囃子も取り入れて曲のバリエーションを増やすと共に、ひょっとこ踊りや獅子舞など神楽にもチャレンジしております。今後は周囲のお囃子会と連携して浦和八町睦連合の復活を目指しております。演奏活動としては、毎年行われる本太地区のお祭りや浦和祭りでの参加。それ以外にも小学校の授業、本太氷川神社の元旦行事や近所の介護施設への慰問。おとしでは、さいたま市の姉妹都市メキシコ・トルーカのサッカー少年団の歓迎会にも出演いたしました。

駒形囃子保存会

駒形の祭囃子は発祥や伝承などの記述がなくはっきりしませんが、調査報告書（昭和49年度に浦和市教育委員会が行った調査の報告書）によると、駒形の祭ばやしは、「江戸系統の祭囃子であるが、「下町囃子」を基調として、これに各地の囃子の特徴を採りこみ、工夫を加えて独特のものとした」ものであり、160年ほど前（嘉永年間1848～1853）に始まったと伝えられています。そんな中で確実に分かっているのが1905年生まれの方が「子供の時には存在していて二十歳の時に年配者に習った」と言っていたので120年以上前には今の形で伝承されていたこととなります。これだけ古くからのものでありながら近隣町村どころか埼玉県内、都内の囃子を聴いても、駒形囃子と同じものを聞いた事はありませんので、何処から伝わってきたのかわかっていません。

神田囃子連

「神田（じんで）ばやし」は明治10年頃、隣村の大久保領家から指導を受け江戸の祭り囃子として今に伝えられており笛1人、大太鼓1人・小太鼓2人・鉦1人の5人囃子で、特に流派はありません。昔は家の後継ぎ（長男）だけに口伝えされていましたが、昭和30年過ぎ頃より後継者を育てるためにも囃子を習いたいという次男、三男にも門戸が開かれました。現在では、祭り囃子に興味があり習いたい人には神田の居住者、老若男女を問わず仲間に入っただけです。活動は毎年元旦に地元の鎮守様に於いての新年の初打ちに始まり、地元の神社の御祭礼（年6回）にお囃子を奉納しています。また、地元の敬老会、神田小学校の体験授業への協力、うらわ祭りの参加等、要請があれば可能な限り参加させていただいております。練習は1月中旬から2月末まで毎週土曜日午後6時から恒例の寒稽古。毎月第3土曜日定期練習、夏祭り、各種イベントに参加する時には、それに向けての集中練習を随時行っています。

原山おはやし会

1950年（昭和25年）頃、上尾市平方より順送りでお神輿（お獅子様）を借り受け、担ぐ。駒形お囃子会から原山祭りに応援参加をしていただきながら、1964年（昭和39年）頃に原山お囃子会を発足し現在に至ります。2000年（平成12年）頃には原山祭り保存会が発足し、毎年7月に行われる「浦和祭り」神輿パレードに参加をしています。また、毎年、原山祭り時と11月には原山にある老人養護施設「尚和園」にて慰問公演を行っています。